

大きく変わる学校 グローバル人材育成
新コース制で芸術の学びのある進学校に



上野学園中学校

上野学園中学校高等学校は、1904年に上野女学校として創立、戦後は学制改革で上野学園中学校高等学校となりました。1949年に日本で初めて高等学校に音楽科を設置、2007年には創立100周年の事業の一環として新校舎が完成。男女共学に移行して、高校に特別進学コースと総合進学コースを設置、音楽教育の充実だけでなく、国公立大学や難関私立大学をめざす進学校としての取り組みにも力を入れています。中学は今まで普通・音楽の2コース制で、普通コースが高校の特進・特進・総合進学コースに、音楽コースが音楽科に接続する一貫教育でしたが、グローバル人材育成をめざして2015年度からコース制を見直し、カリキュラムも大きく変更することになりました。

1. 中学に2つの新しいコース

2015年度から、中学は「アドヴァンストコース」と「プログレスコース」の2コース制とします。アドヴァンストコースは、国公立大学や難関私立大学をめざすコースで、高1生までは中高一貫生みのみのクラスです。国数英の授業時間を十分に確保し、中3から高校の内容に入ります。高2からは高校入学の特進コース生とともに文系・理系に分かれ、目標大学の突破をめざします。

プログレスコースは十分に確保した授業時間数ときめ細かな学習指導で、徹底した基礎学力を育成します。高校では総合進学コースとして4年制大学進学をめざします。夏期・冬期講習も充実していて少人数制での指導で、着実に力をつけていきます。

高校の音楽科へはアドヴァンスト・プログレス両コースの希望者が進学します。音楽専門生にはレッスンやソルフェージュの授業なども実施、演奏会に出演することで演奏力も高めていきます。なお、学年進級時に成績と希望によってアドヴァンスト・プログレスの間のコースの移動が可能です。

3. 芸術の学び

アドヴァンスト・プログレスコースとも総合的な学習の時間では「ひとり一つの楽器」というテーマで楽器の演奏ができるように練習します。フルート、クラリネット、サクソフォーンなどの6つの楽器から1つ選び、中学3年間練習を続けます。ともにハーモニーを作りながら協調性やコミュニケーション力を高めます。中3では演奏会に出演します。音楽

大学である上野学園大学を併設しているからこそその取り組みです。オペラや歌舞伎などの鑑賞教育も行ない、本物に触れることで豊かな感性を身につけます。

4. グローバル教育とフィールドワーク

中学では音声重視でイギリス英語を身につけることを主眼とした英語教育を実施します。イギリス人ネイティブ教員によるオーラル・コミュニケーションや放課後の交流で、英語が身につく環境を整えます。また、中2でのプリティッシュヒルズ合宿研修を実施、英国文化を体験します。こうした経験を土台に短期海外研修も行って、語学力だけでなく異文化を受容する力を伸ばします。

グローバル人材に求められる課題発見・解決能力やプレゼンテーション能力の育成と、やはりグローバル人材に必要な自国文化への理解を深めるため、「上野公園フィールドワーク」を実施します。上野という立地を生かした探究活動で、中1では国立科学博物館や上野動物園などを舞台とした「サイエンスプログラム」、中2は東京国立博物館や寛永寺を舞台とした「ソーシャルプログラム」です。2年間で自然科学、社会科学の両分野の探究学習を体験するだけでなく、テーマ設定、情報収集、見学、研究、レポート作成、発表というプロセスを通して、課題に取り組む姿勢や発表の技術などを身につけます。

5. 2015年度入試について

アドヴァンスト・プログレスコースは別募集で、2/1・2/2・2/5の午前、2/1午後に実施します。

大きく変わる学校 共学化・新コース

世界を視野に入れた教育で内容一新

開智日本橋学園中学校



日本橋女学館中学高等学校は 1890 年に安田善次郎(安田財閥創始者)や三越得右衛門(三井分家当主)らが設立した日本橋区教育会が母体で、1905 年に日本橋女学校を開校、翌年日本橋高等女学校となり、戦後は学制改革で日本橋女学館中学高等学校となりました。2000 年、短大を改組して日本橋学館大学を開学、総合学園となっています。「地域の女子教育の担い手」を果たしてきた学校ですが、都心部に位置することもあって、進学校化が期待されるようになりました。そこで埼玉県で進学校として著名な開智学園と提携し、来春から共学の進学校として生まれ変わることにになりました。校名も上のように変更します。

1. 新しい教育目標

合言葉は「ハーバード、ケンブリッジ、東大、早・慶...。6年あるから夢じゃない!!」で、21世紀型のグローバル・リーディングスクールとします。探究力・創造力・発信力を育成するため、アクティブ・ラーニング(探究型、協働型、プロジェクト型等の学び)で社会の変化に対応できるリーダーを育てることが目標です。

また、世界の大学を視野に入れた英語力増強のため、英語の授業の充実とイメージ(他の教科を英語で実施)授業を実施し、英語を学ぶ環境を充実します。さらに、世界のトップレベルの学力をめざして、国際バカロレアのMYP(中等教育プログラム)とDP(大学進学に向けたディプロマプログラム)を導入します。

2. コース制と授業

従来は「難関大学進学クラス」と「進学クラス」の2コース制でしたが、「グローバル・リーディングコース」「リーディングコース」「アドバンスドコース」の3コース制となります。

グローバル・リーディングコースは、帰国子女や英語力の特高い生徒が、海外のトップレベルの大学を目指します。日本の学びに加え、中1から高1まではバカロレアのMYP(中等教育プログラム)を、高校2・高3生はDP(大学進学に向けたディプロマプログラム)で学び、SAT(アメリカの大学進学適性検査)に対応した特別講座を行います。

リーディングコースは日本のトップレベルの大学、アドバンスドコースは難関大学が目標で、両コースともアクティブ・ラーニングを主体とした探究型・協働型の授業とともに、しっかりとした知識と学力を育成するために、習得型の授業、反復型の学びを実践します。中学2年生までに中学の学習内容を習得し、中3、高1で高2までの学習内容を習得、高3は大学進学対策となります。

高2からはグローバル・リーディングコースのディプロマクラス、リーディング・アドバンスドコースの医学系、国立文系、国立理系、私大文理(文理は教科選択)のクラスに別れます。成績と志望にあわせクラス編成です。

3. フォローアップ体制について

中1から高2までは授業に加えて、朝学習、イブニングスタディ、長期休暇の講習を行い、塾・予備校に通わなくてもよい指導体制を創ります。高2・高3の2年間は日本の難関大学だけでなく世界の大学進学に直結した授業と長期休みの講習、放課後120分~180分の対策講座を実施します。この点は高い大学合格実績の開智と同様な進学支援体制です。

4. 共学化・新体制の進行について

新中1から学年進行で共学化・新体制とします。高校募集は今後3年間、日本橋女学館として現行のような募集を続ける予定です。

5. 2015年度入試について

本稿〆切時点で検討中です。今後発表されます。

大きく変わる学校 中学からコース制

21世紀型の授業で生徒を育成

工学院大学附属中学校



工学院大学附属中学高等学校は1944年に開校した工学院工業学校が母体です。戦後は工学院高等学校・中学校となりますが、中学校は1958年に一旦閉校、以後工業科の高校単独校となりました。1992年、工業系学科を募集停止として普通科の進学校となり、1996年に中学校を再開、2002年には男子校から共学化しました。高校は文理特進・文理普通の2コース制ですが、2015年度からコース・教育内容を改編し、伝統としてきた科学的思考力を伸ばす教育に、さらに国際性を伸ばす新しい教育内容を加えることになりました。グローバル化が加速する時代に生まれた生徒たちが、力強く生き抜く力を身につけるとともに、世界で通用する人材に育てていくことが目標です。

1. 新しい教育成果の指標

世界に通用する21世紀型スキルを身に付けた人材の育成のため、「グローバル、イノベーション、リベラルアーツ、英語の運用力、ICTの活用力」を強化します。従来は中学が単一、高校でコース分けでしたが、2015年度より中学入学時点から「ハイブリッドインター」「ハイブリッド特進」「ハイブリッド特進理数」の3クラスでの募集になります。

2. 各クラスの教育目標と内容

ハイブリッドインターは、主に外国人、帰国生、国内のインターナショナルスクール生が対象ですが、入学時点の英語力は問わず、教育内容に賛同する生徒も積極的に受け入れます。英・数・理は英語で授業を行うイマージョン教育を実施、英語は習熟度や活用力による2レベルのクラスで、無理なく自然な英語の運用能力を育みます。他の教科も現在文部科学省で作成している日本語ディプロマ(海外大学受験資格につながる国際バカロレアの日本語プログラム)の実施を視野に入れた授業です。また、オーストラリア、アメリカ、フィリピンなど、各国での研修を実施、異文化スタディーツアーで世界の多様性を体感、学びます。年2回のTOEFLジュニアの受験を通して世界標準の英語力を身につけ、課題解決型の授業(PBL)などによって世界に通用する実力を育て、海外大学、特に世界ランキング100位内の大学も十分狙えるように育成します。

ハイブリッド特進は、文理を問わず幅広い科目をバランス良く学ぶ教育内容で、高校の文理特進コー

スにつながります。タブレット端末などを活用した双方向型授業で、難関大学や工学院大学を進学目標とするだけでなく、リベラルアーツの習得に取り組みます。

ハイブリッド特進理数は、理数系に強い関心を持ち、優れた資質を持つ生徒を、より伸ばすことを目的としています。他のクラスよりも数学と理科の授業時間を多く確保、実験レポートや科学論文の書き方などの実験や研究に必要な知識やスキルを早い時期から身につけ、専門分野を通して高度な学問への興味を高めていきます。高校からは新設予定の医歯薬サイエンスコースに進んで、医歯薬理工系の難関大学を目指します。また、成績優秀であれば工学院大学建築学部へ飛び入学が可能です。建築分野は海外との接点も多く、中高一貫5年、大学3年、大学院修士課程2年で修了する教育システムで、世界で活躍する土台を築きます。

3. 英語力強化の取り組み例

全クラスとも語学習得に特化した海外研修を中1から実施、日常的に英語を用いるアジア圏の語学学校と提携してのマンツーマン授業で、短期集中的に英語力を養います。

4. 2015年度入試について

3クラス各35名募集ですが入試は合同で、2月1日と2日は各午前午後、3日と5日は午前に実施します。2科4科選択が中心ですが、日程によって思考力テストや英語も選択できる入試です。1日午前午後は特待生も選抜します。

大きく変わる学校 中学でもコース制
世界に羽ばたく品格ある女性の育成



千代田女学園中学校

千代田女学園中学高等学校は本願寺派の学僧、島地黙雷によって 1888 年に創立された女子文芸学舎が発祥です。その後、女子文芸学校を経て千代田高等女学校となり、1927 年には千代田女子専門学校を併設しました。戦後は新制の千代田女学園中学高等学校となり、千代田女子専門学校は武蔵野女子学院に移行、現在の武蔵野大学につながります。一時高校募集を停止して完全中高一貫校でしたが、2005 年から高校募集を再開しています。高校はコース制で中学は長らく単一コースのカリキュラムでしたが、グローバル時代を迎えて、世界を舞台に活躍できる、品格ある女性の育成を目指して、2015 年度から高校のコースを改編すると共に、中学でも入学時点からのコース制を実施することになりました。

1. 新しいコース制

現在の高校は特進コースと進学コースの 2 コース制で、特進コースは理・薬系進学専攻と難関文系進学専攻、進学コースには国際専攻を含むコース編成となっていますが、2015 年度から国際専攻をグローバルリーダーコースに改編、3 コース制とします。中学には「アドバンストクラス」を新設、従来のクラスは「リーディングクラス」として、入学時点からコース制を実施します。

2. コースの教育目標と教育内容

中学のアドバンストクラスは、高校で特進コース・グローバルリーダーコースに接続します。特進コースは最難関私立大を目指しますが、改編でスタートするグローバルリーダーコースは、海外大学進学が十分可能、国内なら国際系難関大学を目指す進路です。高2でニュージーランド3ヶ月留学が必修で、ネイティブ教員による英語漬けのイマージョン授業の英語集中講座や、世界の諸問題について考察し、「リサーチ&プレゼンテーション」の手法を身につけるグローバルシチズンシップの授業など、従来の枠組みにとらわれないカリキュラムを実施します。中学のアドバンストクラスでは、中3から英数は高校内容に入るほか、英数国のハイレベルな問題にチャレンジする7時間授業を週3回実施、長期休暇中は特別講習で高い学力を増進するための演習を積み上げ、実力を伸ばしていきます。また、一般的な英検・数検・漢検だけでなくTOEIC IBTにも

挑戦、学年相当を超えた高い英語力をベースに、中1でフレッシュマンキャンプ、中2では留学生交流キャンプ、中3ではオーストラリア海外総合セミナーを実施、お琴や華道などの日本文化の講座も実施してナショナルアイデンティティを踏まえた異文化理解力を育成します。グローバルリーダーコースに進む生徒だけでなく、特進コースに進む生徒にも、地球市民として「共に生きること」の大切さを身につけるカリキュラムです。

リーディングクラスは高校でグローバルリーダーコースまたは進学コースに接続します。進学コースは基礎学力を身につけたうえで特別活動に積極的に参加、難関私立大学指定校進学を目指します。リーディングクラスでは英数を中心とするグレード別の授業で基礎知識や解き方の技能をしっかりと定着させていきます。異文化体験・海外交流・日本文化の講座等はアドバンストクラス同様で、地球市民としての自覚が芽生える教育内容です。学年進級時に希望と成績でアドバンストクラスに移動できます。

3. 2015 年度入試について

アドバンストクラス、リーディングクラスとも入試は同一問題で実施します。2科4科選択入試と適性検査科型入試で、各回とも基準点以上の得点でアドバンストクラス合格となり、1度うまくいかなくても再挑戦が可能な入試を予定しています。同時に特待生についても、特待S、特待A、特待B、特待Cという充実した制度をつくりました。

大きく変わる学校 改革第2ステージ

S特選コースとGL・留学プログラム



東京都市大学等々力中学校

東京都市大学等々力中学高等学校は1939年、東横商業女学校として開校、戦後は学制改革で東横学園中学高等学校になりました。2009年に武蔵工業大学などとともに再編成された東京都市大学グループの1校として現在の校名に変更、2010年にはそれまでの女子校を女子部として存続したまま、別に共学部を新設しました。現在は共学部のみの募集となっています。共学部開設から教育システムやカリキュラムの改革に着手、現在は「ノブレス・オブリージュ(高潔な若人が果たすべき責任と義務)」を目標とした進学校です。2015年度からS特選コースを中1から編成、3コース体制とするとともに、留学プログラムを整備、グローバルリーダー育成にも力を注ぎます。

1. 新しいコース制について

中高6年間を中1・中2の第1ステージ、中3・高1の第2ステージ、高2・高3の第3ステージに分けるカリキュラム構成で、第1ステージは特別選抜(特選)・特別進学(特進)の2コース制、第2・第3ステージでは特選コースの中で1クラスをさらにS特選クラスとして選抜し、東大、東工大、一橋大などをめざす指導を行なっていますが、2015年度からS特選クラスをコースとして位置づけ、中1から編成するとともに、新たな学習プログラムも用意、最難関大学をめざす指導の深度化を図ります。

特選・特進コースは同校のスタンダードプログラムによる学習カリキュラムで、第1ステージから第2ステージに進む段階で生徒本人の希望や成績に応じてコースを再編成しますが、この段階で新たにグローバルリーダー(GL)留学プログラムを設置、こちらは高1で約1年間の海外留学を行ないます。第3ステージは改めて文系・理系でのクラス分けを実施、国公立大学や難関私立大学をめざします。

2. S特選コースの指導の一例

英語教育では語彙・語句・文法・精読・発音といった基礎力と、英語を語順のまま理解でき、表現できる実践力との両立が課題になりますが、音読を中心とした読解力の養成が両立のポイントですので、徹底的なトレーニングで「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能を向上させていきます。

国語では読解と表現力を同時に鍛えていくため、

社説や天声人語、教員が選んだ文章の要約文の作成や、映像などの視覚情報の言語化に重点を置きます。要約・言語化後は、生徒たちでグループ討論やディベートを実施、技術としての要約や言語化だけでなく、他者を真に理解した上で自分の考えを主張していく力、姿勢を育成します。

3. GL・留学プログラムについて

第2ステージで特選コースに1クラス設置されるプログラムで、高1の7月から年度末まで、カナダかオーストラリアを選んで留学します。希望制ですが、留学前に英検準2級程度の実力は必須で、中3から多読・音読中心の授業と放課後のレベル別実践英語のトレーニングを実施、帰国生とともに学習したり、イギリスのラグビー校からの留学生と交流する中で、留学先で困らない英語力とコミュニケーション力を育成します。また、海外では課題発見力、論理的思考力、自己の意思伝達能力が国内の学校よりも高い次元で要求されることから、リサーチ・プレゼン・ディベート・ディスカッションを重視したプロジェクト型の社会科、実験重視型の理科、ワークショップ型の授業などで問題解決型学習の実力を身につけます。なお、留学期間中の国内カリキュラムの学習は、通信学習や帰国後の集中講座、放課後講座等でカバーします。

4. 2015年度入試について

S特選は2/1・2/3各午後、特選・特進は2/1～2/3午前に実施、2/2午後に英語選択入試も新設します。

大きく変わる学校 男子校から共学化
「国際教育」「哲学教育」の進学校へ



東洋大学京北中学校

京北中学高等学校は 1899 年に京北尋常中学校として開校しました。創立者が東洋大学の創立者井上円了だったことから、もともと東洋大学とは深い関係にあり、1913 年には東洋大学と合併しますが戦後の 1951 年独立、その後は独自の歩みを続けてきました。東洋大学の併設中高強化の動きもあって、2011 年再び東洋大学と合併し、現在に至ります。以前の文京区白山のキャンパスは東洋大学に隣接していましたが、少し離れたところにある東洋大学白山第 2 キャンパスと敷地を交換しての新校舎の建設に着手、現在は一旦北区赤羽に移転しています。来春、新校舎の完成とともに長年の男子校から共学化し、「東洋大学京北中学高等学校」に改称することになりました。

1. 東洋大学の附属だが基本は進学校

現在は中学募集と高校募集を行っています。これは今後も同様で、新年度からは原則として中学入学生と高校入学生は、高校段階では別クラスとなります。双方とも学年 4 クラスを想定しています。中高一貫生は中 1・中 2 では学力を均等としたクラス編成、中 3～高 2 で難関国公立志望のクラスを 1 クラス編成、他のクラスは国公立大・難関私大を目指した指導となります。高 3 では難関国公立志望のクラスを 1 クラス、国公立大・難関私大志望を 2 クラス、東洋大内部進学を 1 クラス編成していきます。

高校入学生は高 1 の入学時点から本人の希望と学力等を踏まえて、難関国公立志望のクラスを 1 クラス編成、他のクラスは国公立大・難関私大を目指した指導です。高 2 も同様で、高 3 では中高一貫生と同じく国公立大・難関私大志望を 2 クラス、東洋大内部進学を 1 クラス編成していきます。おわかりのように、東洋大学の附属校ですが、東洋大学への内部進学は中高一貫生、高校入学生とも各 1 クラスずつしか予定されていません。基本は国公立大や難関私立大が目標です。東洋大学との連携教育は実施されますが、その中で哲学など、高度な分野を特に深めたい生徒のみ内部進学、の前提です。カリキュラムは国公立大入試に対応し、文系、理系とも幅広く学習する構成となります。

2. 国際教育について

大学進学だけでなく、グローバル化に対応して国際教育に力を入れます。学校設定科目として「国際英語(コミュニケーション英語を楽しく学ぶ)」「国際理解(異文化共生、体験)」「国語で論理(相手の話を正しく理解し、自分の意見をわかりやすく伝える)」を設定します。英語漬け合宿やカナダ研修の全員参加、希望制の海外語学研修といった、英語力強化の取り組みだけでなく、東洋大に通う留学生との交流や国際講演会などを通じて国際人として活躍できる教養とスキルを身につけていきます。

3. 哲学教育について

東洋大学は哲学の大学ですから、連携して「哲学ゼミ」「名著精読」「生き方講演会」「刑事裁判傍聴」「エッセイコンテスト」のプログラムを用意します。「『ついてもいい嘘』はあるか」「代理出産は禁止すべきか」など、具体的なテーマに取り組み、ディスカッションを積み上げ、最後には「哲学とは何か」を考えることで、深い思考力を鍛えていきます。

4. 新校舎について

共学化に備え、明るいデザインの新校舎を建設中です。地下鉄白山駅から徒歩 6 分になります。

5. 2015 年度募集について

詳細は今後発表されますが、2 科 4 科選択入試とし、2 科選択者は面接を課して理科・社会を受験していない分、理社に対する学習姿勢や、全体的なモチベーションなど確認します。

大きく変わる学校 新コース設置

新たなコース制で進学校色を鮮明に

藤村女子中学校



藤村女子中学高等学校は1932年、東京女子体操音楽学校(現在の東京女子体育大学)の附属高等女子学校として設立されました。戦後は東京女子体育大学が学校法人藤村学園、本校は学校法人井之頭学園の経営と、経営母体は別になりましたが姉妹校で、本校も多数のスポーツ選手を輩出してきました。近年は高校に特進クラスを設置するなど、スポーツだけでなく各分野で活躍できる女性の育成に努めています。2015年度からは高校のコースを増設するとともに、中学にもコース制を実施、進学校としての体制を強化することになりました。「文武両道、日本一」を目指します。

1. 新たなコース制

現在の高校は、生徒の多様な進路希望の実現を図る総合コースと、全員が運動部所属でスポーツに重点を置きながら進学希望の実現を図るスポーツ科学コースの2コース制で、さらに総合コースは特進クラスと進学クラスに分かれています。総合コースは、特進・進学クラスをコースにするほか、新たにS特コースを新設、進学目標に合わせた3コース制とします。また、スポーツ科学コースは今後も設置しますが、それだけでなく国公立大や難関私立大を考える生徒に向けて、新たにスポーツ科学特進コースを新設します。中学は現在コース制ではありませんが、新たに特別選抜コースを新設、2コース制とします。従来のクラスは特進コースとします。なお、中高とも本人の希望などケースによって進級時にコース変更ができます。

2. 指導システム

S特コースは東大などの最難関国公立、早慶上智などの難関私立大学を目指す指導体制とします。特進コースは難関国公立、難関私立大学を目指したカリキュラム編成とします。進学コースは文系・理系をバランスよく学ぶ充実したカリキュラムで国公立大学や私立大学を目指します。スポーツ科学特進コースはスポーツ科学コース同様、全員運動部所属で、行事などもスポーツ科学コースと同じですが、受験教科についてはさらに強化する内容です。スポーツ科学コースは今までどおり運動部に所属しながら、東京女子体育大学への優先入学をはじめとする大学

進学を目指します。

中学の特別選抜コースは、高校でも内部進学生のみでの編成で、高校のカリキュラムを先取り、東大などの難関国公立、早慶上智などの難関私立大学を目指します。高校段階では一部高1で高校入学の高2生徒と同じ授業を受ける場合も出る予定です。中学の特進コースは、学習の基礎基本を定着させながらカリキュラムを進めますが、一部高校のカリキュラムを先取りします。

フォローアップの面では、さらにきめ細かい対応に向けて、学習センターを有効に活用します。機能をさらに充実させ、チューターを常駐して生徒に対応します。また、グローバル社会に対応する人材育成に向けて、発明力・アイディア力・企画力・プレゼン力といった発信力をどのコースの生徒にも鍛えていきます。なお、コースが中高とも細分化しますが、文化祭や修学旅行などの行事はどのコースも共通で、放課後の部活動もどのコースの生徒でも参加できますので、学年・学校全体のまとまりや、家庭的な雰囲気は今までどおりです。

3. 来春の中学募集について

特別選抜コースと特進コースのコースごとの受験となります。試験の結果によるコース変更が可能です。今年と同じ2科4科選択の通常の入試とプレミアム入試に加え、適性検査型入試も行います。2科4科選択では得点率の高い方で合格判定を行います。また、適性検査型はプレミアム判定も同時実施で、三鷹中等教育学校を意識した出題です。

大きく変わる学校 新コース制実施

SSH、国際塾の取り組みで内容一新

文京学院大学女子中学校



文京学院大学女子中学高等学校は1924年に島田裁縫伝習所としてスタートしました。その後女子高等職業学校を設置、戦後は新制中学・高校となり、幼稚園、短大、専門学校を開校して総合学園となりました。1985年に高校に英語コースを設置、1991年には大学を開学、このころから「保育や家政系を中心とする女子の学校」からの脱皮が始まり、中学・高校は進学校化が進むとともに、国際交流も活発になりました。科学教育にも力を入れていて、2012年には文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール(SSH)及び、コアSSHに都内女子校として初の指定を受け、先端教育プログラムの研究が進んでいます。来春からコース制を大きく変更することになりました。

1. 3つの大きなプログラム

今春までの中学募集は、特進と文理の2コース制で、高校段階では特進と文理の2コースに加え、分野特化型の英語コースと理数コースを設置しています。しかし、社会は大きく変化していて、これからの中高一貫教育には、「将来のグローバルキャリアをデザインする学校」「社会で生きていく力を育む学校」が求められます。こうした時代に対応する教育を実践するため、中学は「アドバンスサイエンス」「グローバルスタディーズ」「スポーツサイエンス」の3つのプログラムの新コース制とします。

入学後の希望の変更も踏まえ、中1は各コースともそれぞれの基本プログラムは実施しますが、ほぼ同一のカリキュラムで、学習習慣の確立と基礎学力の定着に重点を置き、中2になる時点でコースの移動が自由にできます。コースごとの内容を深める学習は中2からとなります。

「アドバンスサイエンス」「グローバルスタディーズ」は高校段階でそれぞれ「理数キャリアアドバンス」「国際教養アドバンス」ととなり、高校入学生用のスタンダードコースが別途設置されますので、内部進学生はアドバンスへの進学が原則です。「スポーツサイエンス」は高校入学生と混合です。

2. 科学教育について

2010年に科学教育センターが設置され、翌年から科学塾がスタート、放課後に希望者対象の高度な数学教育を中1～高2で実施、科学探究の基礎力を養

成し、SSHクラブで実験、研究活動を実施、これが2012年の文部科学省のコアSSH指定につながっています。東大、東京理科大、工学院大や海外大学との連携プログラムも実施、新コース制では、現在までの積み上げを生かして、理系人材育成により深く取り組みます。

3. 国際教育について

2010年に国際教育センターが設置され、国際塾が開始されました。「英語で発信できる」「英語で情報収集できる」「文化を尊重できる」人材育成を目標に、中学・高校生に放課後講座を実施してきました。英検の級取得だけでなくGTECでハイスコアの生徒も出るようになってきました。新コース制では、従来の文理コースの生徒たちも英語コース並みの英語力をつけるべく、コース全体に取り組みを広めます。

4. スポーツ科学教育について

運動系部活漬けの教育内容ではなく、「健康を科学する」内容です。本年スポーツ学教育センターが設置され、プログラム整備が進んでいます。

5. 2015年度募集について

2月1日午前、午後、2月2日午前、午後、2月4日午前の5回、2月1日午前は80名、他の4回は合計して40名を予定しています。全回2科4科選択入試です。なお、同校では今春まで一部の入試回次で国語・算数基礎が必修、算数応用・理科・社会・英語から選択の「文京学院方式」を実施していましたが、一般的な2科4科選択となります。

大きく変わる学校 共学化・新コース

21世紀型の相互通行型授業を展開

三田国際学園中学校



戸板中学校・女子高等学校は1902年創立、1916年に三田四国町へ移転して三田高等女学校を創設しました。『人生に於ける全てのことは知ることから始め、それを好きになり、最後に楽しむ境地に至ったときこそ、初めて自分のものになり、豊かなものになる。』孔子の教えに由来する「知好楽」が創立時からの教育理念です。現在は世田谷・用賀ですが、三田の地には学園の教育のルーツがあります。112年続く建学の精神を受け継いで、『時代に適応した実学』を提供する場であり続けるために、来春から共学化、カリキュラム一新で、『三田国際学園中学校』として新たなスタートを切ることになりました。

1. 三田国際学園の教育活動

21世紀型授業推進校として、教科書を中心とした従来の一方通行型詰め込み授業とは異なり、知的好奇心を原点とした「考えることを支援する相互通行型授業」を実施します。あらゆる教科で日常的に、問いかけを出発点とし、思考して解答を導くサイクルの授業を展開し、生徒一人ひとりの知的好奇心を刺激し続けていきます。IQ(知能指数)よりもCQ(好奇心指数)・PQ(情熱指数)を高める授業を行います。生徒はタブレット端末を活用して、教員の問いかけに対応する必要な情報を集め、自分の考えをクラスメイトと話し合い、解答を見出します。ペーパーテストの学力だけでなく、何回ものディスカッションを通じてお互いを尊重し、自らの考えを分かりやすく伝えることを身につけていきます。

2. 中学校の教育内容

本科クラスとインターナショナルクラスの2コース制です。本科クラスでは、「知的好奇心」を刺激しながら、しっかりとした基礎学力を構築していきます。英数は繰り返し型学習「r-Test」を実施、定着していない内容を繰り返す、生徒個別のテストを通じて基礎学力と学習習慣を身につけます。授業は「思考する」ことに焦点をあてて、生徒の自発的な学習意欲を引き出しながら学ぶ楽しさ・知る面白さを追求していきます。インターナショナルクラスでは、英語によるイメージ教育(他の教科を英語で学ぶ)をベースにした授業を展開します。帰国子女などの英語が自由に話せる生徒と英語初心者の生徒では

対応を変えることで、どちらも教科の力と英語力の双方の向上を図ります。

3. 高校の教育内容

高校では本科・スーパーサイエンス・スーパーイングリッシュの3コース制になります。本科コースでは幅広い教養の習得と基礎固めの上で、難関大学合格を目指します。文系・理系の選択授業は高2から行い、ハイレベルな授業展開と問題演習で実践力を身につけます。スーパーサイエンスコース(SSC)は理系に特化したコースで、サイエンスラボでの実験を重視した授業を通して将来の研究者の資質を培います。高1では生物・化学・物理の基礎知識と実験技術を身につけ、高2からは専門分野を追究します。また高1から「基礎研究」として少人数のグループでテーマを選択し、3年間を通じた研究活動に取り組みます。スーパーイングリッシュコース(SEC)では、週10時間の英語授業を軸に、ネイティブスピーカーとの対話を中心とした英語教育を展開します。「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能をバランスよく習得、英語を使って自分の考えを表現できるコミュニケーション力を養い、世界で通用する「使える英語」を身につけます。高2では全員が英検2級を、さらに高3では英検準1級・TOEFL®ibt80点レベルが目標です。高2ではアメリカの大学での短期留学を実施します。SSC、SECとも国内難関大学や海外大学が進学目標です。

4. 2015年度入試について

2/1AM、2/1~4各PMにコースごとに実施します。

大きく変わる学校 薬学理系に+

難関大学・世界を目標の新コース制

武蔵野女子学院中学校



武蔵野女子学院中学高等学校は1924年、仏教学者の高楠順次郎によって築地本願寺内に創立された学校で、1929年に現在地に移転しました。創立以来現在まで、「浄土真宗本願寺派立」の仏教系の学校です。高等女学校でスタートしましたが、戦後の学制改革で中学・高校となり、1950年に短大、1965年に4年制大学を開設しました。大学は2003年に女子大から共学となり、名称も「武蔵野大学」としましたが、敷地が続いている中高は女子校のままです。女子校には珍しく理科実験室を6つも備えていて、薬学理系進学を重点としてきましたが、2015年度から高校に難関大学進学とグローバル化に対応したコースを新設、中学校にも選抜進学クラスを設置してコース制を実施することになりました。

1. 新しいコース制

従来、中学は単一コース、高校段階で将来の理系・医療系・薬学系進路を目指す薬学理系コースと進学コースに分かれ、進学コースが高2からさらに選抜文系コース、選抜文理系コースと総合進学コースに分かれる体制でした。新年度からは生徒の進路希望の実現と、今後の時代に活躍する女性の育成を目指して、コース設定、カリキュラムを見直し、中高一貫のカリキュラムを深度化します。高校では選抜文系コースを高1から設置して、より高い学力の育成と難関大学合格に備えます。また、1年次から新たに1年留学を実施する国際交流コースを新設します。薬学理系コースと総合進学コースは従来通りですが、カリキュラムはパワーアップします。中学では1年次から新たに「選抜進学クラス」を編成、高校での新たなコースの発展的な学習内容と連携していきます。従来のクラスは「総合進学クラス」となります。

2. コースの教育目標と内容

「選抜文系コース」はG M A R C H以上難関私立大学・国公立大学の文系学部学科への進学を目指します。大学一般受験を前提とした学習体制とカリキュラムで、高3では入試問題演習を中心とした受験対策授業を展開します。日常的な英国社の7時間目講習や、長期休暇中の特別講習演習、受験英語力の強化のための予備校講習などを実施する予定です。

「国際交流コース」は高2の7月からの1年間海外留学が必須です。日本語と合わせて英語や他の言語に興味を持たせ、TOEIC等で高得点をとれる

英語力を身につけさせるカリキュラムを実施、異文化交流できる精神力とコミュニケーション能力、日本を世界に紹介し、留学先国を日本に紹介できる発信力を育成します。帰国後は難関大学の語学系・国際系の進学を目指します。

「薬学理系コース」は、武蔵野大学薬学部への優先入学(第1志望)・優遇措置(他大受験との併願)での進学がありますが、国公立大・難関私立大の医薬系・理系学部を目標とします。日常的な受験英語力の強化の英語講習や数理の7時間目講習、長期休暇中の特別演習等を実施します。大学一般受験が前提の数理に特化したカリキュラムで、高3では入試問題演習を中心とした受験対策授業を実施します。

「総合進学コース」は武蔵野大学への優先入学・優遇措置での進学(薬学部を除く)や、幅広い学部学科の大学進学を目指します。日常の学習の充実で大学受験と学校行事・クラブ活動等の両立を図ります。G T E Cを中心とした英語力の強化と小論文対策の重視、インターンシップの実施や、理解力に合わせた習熟度別授業を行って総合的な知識を身につけさせ、理系・文系に偏らず、幅広く視野での大学選択を目指します。

中学の選抜進学クラスからは薬学理系・選抜文系・国際交流コース、総合進学コースからは国際交流・総合進学コースへの進学がメインとなります。

3. 2015年度入試について

中学入試は選抜進学が2/2午前午後、総合進学は2/1午前午後で、それぞれ特待生合格を出します。

大きく変わる学校 中学でもコース制

「叡智コース」でグローバル人材育成

麗澤中学校



麗澤中学校高等学校は、1935年に創設された男女共学・全寮制の道德科学専攻塾が母体で、1951年に全寮制の麗澤高等学校になりました。1992年から通学制を開始、現在では通学生が多数派です。同校はモラロジー(道德科学)に基づく知徳一体の教育を基本理念としています。モラロジーは道德を科学的に研究し、人類普遍的道德的原理を明らかにする学問として位置づけています。2002年には中学校を開校して中高一貫校になりましたが、中学校開校から丸12年が過ぎて、時代はグローバル化へと大きく舵が切られました。そこで、2015年度入学生から新しい教育システムを構築、中高一貫校コースを「叡智コース」として、グローバル社会で活躍できる人材の育成をめざすことになりました。

1. 「叡智コース」が育てる人間像

グローバル社会での「叡智」とは、冷静・客観的に物事の本質を見抜き、複雑な諸問題を解決していく総合的な人間力のことです。叡智コースでは優れた叡智を携えた真のリーダーを育成するため、これまで蓄積してきた研究成果と実績を活かし、5つの「L」(Language 英語力・Logical thinking 論理的思考力・Liberal arts 教養・Literacy 情報活用力・Leadership リーダーシップ)を鍛え、次代に先駆ける真のリーダーを育成することが目標です。叡智コースはさらに「アドバンスト叡智(AE)コース」と「エッセンシャル叡智(EE)コース」に分かれます。

2. AEコースの内容

AEコースは東大を目標とし、東大入試で求められる力を育成していきます。英語は1クラスにネイティブ2人、日本人2人の教員4人体制で、少人数・習熟度別授業を行います。基本的に授業は英語で、入門期は音声活動(リスニング・スピーキング)を徹底して錬磨します。2年生からは体系的な英文法、パラグラフ・ライティングにも力点を置き、中学で高校文法も先取り、ハイレベルな運用力の獲得を目指します。数学も高1内容を中3までに学習し、高1までに受験知識の全体像をつかむようにします。文系の生徒は高2から、理系は高3から演習を行い、数学の総合力を習得します。また、6年間のあらゆる場面で相利共生の感化教育を行い、「叡智」を磨きます。Lアワー(週1回、上記の5つのLを更に強化する時間)やホームルーム活動、総合的な学習の一部

は学年の壁を取り払い、コース内の先輩が後輩に指導するように運営します。先輩は実践的にLeadershipを、後輩はFollowershipを体験・体感していきます。

3. EEコースの内容

EEコースは高1までの4年間で3学級編成です。英語はAEコース同様、1クラスにネイティブ2人、日本人2人の教員4人体制の少人数・習熟度別授業で、さらに独自の実践的英語教育と言語技術教育を徹底的に実施します。高2からは目標進路別の編成で、難関国立大学目標のTKクラス文・理系、難関私立大学と国公立大学目標のSKクラス文・理系、難関私立大学(文系)と海外大学をめざすILコース(International Leadership Course)に分かれ、それぞれの進路実現を図ります。特にILコースではネイティブ教員による週8時間のEnglish Language Artsで、実践的な英語力を習得します。

この他、AE・EE両コースとも、キャリア教育として「自分(ゆめ)プロジェクト」を実施し、自己理解と進路選択準備に努めます。また、高2・高3の「小論文講座」や「高大連携プログラム」で、大学など専門機関の研究者からさまざまな分野の講義を聴講する機会も数多く設定します。

4. 2015年度入試について

従来1月22日・25日の午前に4科、2月3日午後に2科入試を行っていましたが、1月21日午前にも4科入試を新設します。2月3日はEEコースのみの募集ですが、他はAE・EEそれぞれ募集します。